

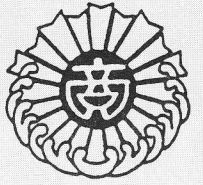
発行所

東京都江東区  
越中島3-3-1

東京都立第三商業  
高等学校同窓会

編集 同窓会事務局  
電話 (3641)0380

# 三商同窓会報



No.35



ご挨拶  
校長 坂倉敏夫

私が三商に赴任して四年目になりました。豊洲運河の眺めは毎日新しい姿を見せて楽しませてくれます。先日は一学年保護者会の皆さんと、この運河から隅田川へと屋形船にての研修・親睦会を催し下町の風情を味わいました。

そして、校長室では七月十八日に平成九年度に行う創立七十周年記念会(昭和二年一月設立)の準備のための小委員会を開き、全日制・定時制共催にて、日時は九月十一日(土)、会場は記念式典・祝賀会とも校内で行う。併せて、記念誌の発行を行う等の基本方針を確認しました。同窓会の皆様には今後お頼みすること多々あることと思えます。ご支援ご協力の程よろしくお願いたします。

さて、三商の現状ですが、今年度も第一学年が一学級減少し、一年六学級、二・三年が七学級規模になり、一学級四十名定員ということもあり、私の赴任時には生徒数が千名でしたが、今は七百名台になりました。

都内公立中学校卒業者は今、昭和六一年のピーク時の三分の一、平成(〇年度)には今の三分の一になる(都立高校白書より)見込みです。少子時代の波はじわじわと教育の世界だけでなく日本経済等いろいろな面にさまざまな影響を

与えていくことになるでしょう。

この流れのなかで本校は生徒数の減少を一人一人の生徒の個性を伸ばし育てる好機と考え、三商の伝統である特色ある学校作り而努力を怠らなくてはと教職員一同大いに知恵を絞っているところで

なかくても多様な個性を持つ生徒たちのそれぞれの進路を保証することが生徒のやる気を引き出す事になります。進学を希望する者は普通高校だろうが専門高校だろうが、そこで履修した勉強が生かされる入試方法を大学は作るべきです。就職も同じです。企業は学歴や出身校で差別するのではなく、それぞれの個性を生かした雇用をするべきです。

そのなかで大学入試については調査書様式の改定や専門教育を受けた生徒の特別枠の設定、指定校推薦の増加等明るい兆しは見えてきました。国家公務員試験でも年齢制限を導入して高校生の枠の確保が実現しました。一般企業にも反映していくよう要望していきたいと考えています。

オウム真理教事件に見られるように大学に入ったというだけで自分の人生の目的が終わったと考える風潮を助長するような現状を打破するためにも、生徒減少期の今

こそ、高校教育現場も行政も、そして企業、大学も一人一人の個性を尊重し育てる工夫が緊急であると考えます。

そのことでは本校OBによる市民(社会人)講師の授業は生徒の個性を伸ばす指導に貴重な存在です。三年間、三商会計人会から推挙された公認会計士田村都彦先生に担当していただきましたが、今年から税理士石川 昭先生にバトンタッチされました。有り難いことです。早速、税務署にての研修授業に入りました。

去る三月に産経新聞に本校が紹介されましたが、一番注目されたのは同窓会のさまざまな母校に対する支援の事でした。私の話を記者が聞き取り記事にしたのですが、見出しは「OBら講師に招き授業も多彩」でした。

今同窓会の皆さんにお願いしたいのは、進路指導活動への支援です。特に女子における就職難は大学短大に比べれば、悪くはありませんが、冷えたままです。企業に対して本校生徒の良さを理解していただく、同時に企業の要求を察知する、即ち社会の変化に対応する進路指導をするためにも積極的に企業見学をする時代です。同窓生が活躍している職場をぜひ見学する機会を増やしたいと考えます。お力ぞえをお願いいたします。さらに中学校が商業高校に対する理解を深めるためのPR活動も大切です。そして、大学等の進学志望者の増加に対する正確なアドバイスも重要です。先般、多数の卒業生が進路指導に来校していただきました。大変心強い思いを致しました。次回もさらに多くの方

の来校を計画いたします。積極的なご参加をお願いいたします。

今、東京都は都立高校を量的整備から質的充実への転換を図る好機ととらえ、教育条件の向上改善や既設校の規模・配置の適正化・特色化を一層進めようと考えています。

我が三商は、良き伝統に学び、新しい社会にたくましく対応できる生徒の育成に全力をあげます。まず七十周年そして百周年へと力強い歩みを続けていきますので卒業生諸氏の一層のご支援をお願いいたします。

平成8年度 離任教職員一覧表

職名	担当	氏名	転出先	〒	住所
教諭	国語	吉田 光	光 丘	180	武蔵野市中町2-23-10-A-302
。	社会	小山 公央	紅葉 川	131	墨田区押上2-22-15
。	保・体	坂本 裕美	駒 場	164	中野区中央4-8-14
。	保・体	永沢 正明	石神井 聳	180	武蔵野市中町2-5-5-301
。	英語	下出 利光	大 泉 北	180	武蔵野市境南町4-11-8-305
電 託	商業	平元 輝男	退 職	273	船橋市丸山2-37-5
主 事	事務	工藤 美子	篠崎 三小	279	浦安市堀江1-12-18-201
。	司書	蓮藤 明子	足立 新川	121	足立区梅島3-32-25-905
。	用 務	平野 あい子	墨東 養護	136	江東区北砂5-2-18



ご挨拶  
三商同窓会会長  
都築 健一

同窓会の皆様益々清栄の事とお慶び申し上げます。昨年三四回同窓会会報に申し上げた様に同窓会名簿を現在作成中にて、秋には完成する事と存じます。三商創立七十周年は平成十年三月ですが、学校行事の日程の関係で来年平成九年十一月に繰上げ式典を開催する事になりました。この為近く準備の下相談にかかる事になりました。追って実行委員の様なものを学校、PTA、同窓会の三者で発足する事となりますが、その節は同窓会の方にもご協力をお願い申し上げます。又前回お願い申し上げました同窓会役員の改選につきましてもこの会報発行迄にはまだ決定しておりませんが、七十周年を一つの節目と考え、是非将来に向かつての陣容をとこのえたくお願い申し上げます。同窓会も御手伝い致しております財団法人東京三商会の運営につきましては、この二・三年経済不況、住専処理問題等のため低金利政策の影響を受け、財団も基本資金より増やした運営資金を取りくずす赤字経営の羽目になり、今期も引き続き苦しい状態から抜け出せません。財団発足以来曲がりなりに今日迄どうにか運営致して参りましたが、今後の運営を検討する時期と存じま

す。学校当局よりのお話しもありますので、一年以内をメドに六日町山寮の今後の対策等考えたいと思ひます。この件について同窓会の会員の専門家の方のご助言も得たいと存じます。今春前校長の後藤安孝先生が都立三商校長を勇退になりました。三商校長在任中は三商教育にご尽力いただきました。その御人柄は誠実そのものの方で尊敬申し上げておりました。六月十五日中野日本園にて、一商、三商、亦羽商等都立商業の先生方、PTA、同窓会の有志にて後藤安孝先生を囲む会を催し、長年の教育に対するご功績に対し御礼を申し上げます。又初代校長吉澤徹先生のご遺族長男吉澤潤先生(元

日本大学教授)が昨年ご逝去になられました。小生葬儀に弔問させて頂いたましたが、前号にも申し上げました吉澤先生の多磨墓地の維持につき、教え子の高齢化が進むうち、これを建立した戦前の保護者会同窓会の志を無にしないよう今後是非心にためて下さるようお願い申し上げます。二代校長今村直人先生、清田榮一先生の墓参会も有志の期の方により今年も行われると存じますが、師恩を奉ずる想いが、いつまでもつづく事を祈ります。私の会長としての責務も老齢の為パトナツチの時期が迫っております。今後の皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

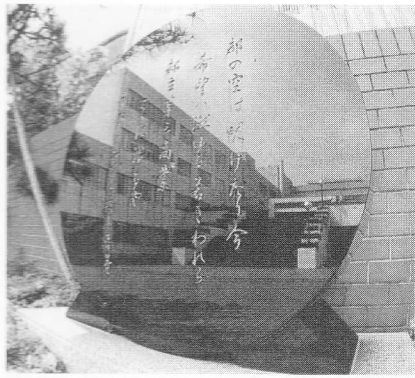
### 同窓会運営三分割論

十期・元三商教諭

竹田 一郎

結論からさきに述べます。具体的に同窓会全体会長が一人(これは大先輩が就任)その下に副会長を卒業期数三分割に依る三人制として三人置いて同窓会を運営します。卒業期数(年齢)をどこで区切るかが最大の焦点です。何故、

区切るのか、それが問題で本論の骨子です。以下、提案します。平成八年、三商の卒業生は数えて六十三期生(十八歳)。一期卒業の大先輩は八十一歳。祖父に当たります。イヤ、早い人だと曾祖父になります。完全に三世代です。然し全国共通、戦後五十一年目を迎えた今日、勿論、時代の背景にはただならぬものがあります。単純な二世代ではありません。



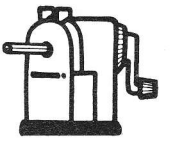
繁鎖になりますから過ぎ来し昭和時代史は省きます。要するに戦争そのものを身をもって戦い抜いた当事者世代と、当事者ではないが、戦時下を生き抜いて戦争を身近に体験した世代と全く戦争を知らない平和な戦後時代を過ごしてきた世代とに大別されます。それ

が卒業生の総てです。昭和二十年八月戦争が終結して恒久平和が到来した時、一・二期生は三十歳(現八十一歳)。十期と十一期生は二十歳(現七十一歳)。そしてこの時まで、三商に入学者も卒業もしていない二十・二十一期生は十歳(現六十一歳)でした。戦後五十一年目迄の卒業生たちはこれら大先輩の方々の一番近い子孫であり、係累です。親子三代、三商卒業というケーヌは稀ではありません。長い年月です。卒業生たちは一同窓生としてはみな一様に言わば同じ資格ですが、卒業期に依る年齢構成別は厳然としていますし、生まれも育ちも人生修業は勿論のこと、信念も実践も総て異なります。同窓会運営に当たって「理事会云」「評議員会」の開催で学校として、同窓会として全体的な議題はたとえば総会開催、周年行事、校舎改築、諸命題などは当然、戦前も戦後もなく各期選出者全員集会所する。そのあと、具体的な実行方法の討議は期別、年齢に依り三分割した集會に掛けるというのが本論の主旨であります。議題に依り、年寄り若者たちの意見や見解が異なり、まとまらない虞れも出るのを防ぐためです。つまり総論は全体討議、各実践論は三分割討議で運営という寸法です。そこで、分割の方法ですが、これがいろいろあります。先ず、全体会で以上の分割所論につきご討議頂くとして、然るのちにいろいろと分割方法を決定願えればと思います。以下、分類方法の私見です。

①一番手つとり早い方法は、長老組(オールド)、家長組(ミドル)・後継組(ヤング)とします。オールドは八十代、七十代、六十代(一期生から二十一期生)まで、ミドルは五十代、四十代・三十代(二十二期生から五十一期生)まで、以下、ヤングです。三商在学中の学校生活模様は考慮外です。◎五十周年記念誌「五十年の歩み」(十一頁)に各時代の学校生活模様を加味した見事な時代区分があります。初代吉沢校長時代(昭和三年四月から昭和十四年二月)が草創期、興隆期。二代今村校長時代(昭和十四年三月から昭和十九年六月)が戦中期、復興期。三代目伊沢、四代石田、五代清田校長時代(昭和十九年六月から昭和四十四年三月)が転換期、六代篠七代正願寺、八代笠井校長時代以降(昭和四十四年四月から)が定着期です。これら学校史を繕いながら分割分類方法も考慮されるべきでしょうし、敢えて筆者は結論を出しません。理事会、評議員会の討議に委ねます。理事会、評議員会で何も三分割案の必要なしという結論が出ればそれに従います。オールド人口は減る一方です。旧制中学即五年制時代の在校生は一年次の上級生、五年次の下級生迄と前後十年の、高校に移行してから六年の人間関係が卒業後の人生模様に影響を与えていることをこの際、ご考慮願います。あと三十年後、三商百年です。私はもうこの世にはいません。以上、同窓会分割運営導入のご提案を申し述べました。言葉足らずですが、主旨ご理解の上ご採択願います。以上



# 同窓会 随想



古暮正雄

私が三商を退職してから十年、人生馬齢を加えて七十年になりました。戦争末期に「厄介」になったのですが勤労労働員であちこちの工場に出かけた生徒諸君の姿、東京大空襲で戦死を遂げた百余名の生徒の顔、そして終戦、新制高校への切り換え、男女共学開始などなど、谷川の流れのように過ぎ去った四十余年が甦ります。あの時計塔の旧校舎から現校舎へ移って卒業の五十期生諸君を送り出したのが在職最後の思い出になりましたが、現校舎になってからの三商は随分変わったようです。やはり社会や教育制度の様変わりによるものでしょうか。三商は昭和三年の創立ですから、明後年が七十年周年になりますか、この春、六十二期生が門出したその時の流れを改めて想います。近く新しい同窓会名簿が発刊されますが、戦後の混乱期に同窓会を建て直された岡田一郎前会長（一期）が八十歳を超え、相変わらずお若くお元気であり、都築健一現会長（三期）は老年齢を忘れたかのように活動的でいらつしやるのは嬉しいことです。そして役員の方々が母校のよき伝統を背負う会員諸氏へ呼びかけ各期の交流を深め同窓会を守り立てて来られたことは、同慶の至りです。先生方も米寿を迎えられた高橋昇一先生や井上速雄先生、西岡恒三先生、矢島幸先生の

ようにご高齢にもかかわらず往年の卒業生の集いにお出かけになるのを目にするのは嬉しいことです。しかしながら、この十年の間に同窓生をよなく愛して下さった今村直人先生（二代校長）、清田榮一先生（五代校長）や半世紀近く情熱を傾けられた横山文夫先生（美術）、同窓会事務局長としてもお世話された大先輩の杉原勇太郎先生（商業、六期）、他に何名かの先生のご他界は悲しく寂しいことです。事務局で前の名簿作成にも努力された渡辺勝彦先生（商業、二十二期）の早世も残念なことでした。同窓会役員で長年尽力された登内 実（四期）、都築進次郎（四期）、川野太郎（六期）、石川保（十期）、矢作福正（十一期）、北川正行（十一期）、坂本栄一（十二期）の諸兄、会員で鬼籍に入られたかたも多いうで併せて「冥福を祈りたいと思います。

さて、同窓会事務局はこれまで母校勤務の卒業生が担当しておりましたが、多いときは杉原先生はじめ十余名を数えたのが転勤や停年退職で少なくなり、ただ一人の岩瀬 源先生（商業、十九期）も先年勇退され、さてと案じられたのが若手気鋭の藤波喜代美先生（商業、四十七期）、土谷 武先生（商業、五十期）が相次いで赴任されたことで、暫くは岩瀬先生の協力を得るもの事務運営は力強いことです。最後にこの場をお借りして一言、昨年の会報へ吉岡鶴義先生が寄稿された中で、私に友情厚い記述があり有り難くもこそばゆい思いでした。吉岡先生は母校三商でのながい勤務のあと、千葉経営短大の教壇へ、さらに日本

語学校名誉校長をされたので、現在を引き続きバレーボール協会役員を、趣味の園芸、絵画、外国語会話に昼はテニス、夕刻は社交ダンスと多彩な日々を過ごされているのです。体調不十分で日々是浪人の私は羨ましく、ただ敬服するばかりです。駄文をお許しねがい、先生がた、同窓生会員皆様のご多幸をお祈りいたします。

（七夕の日、本校元社会科、書道科教員、十二期）

## たより



小山公央

二商から離れて数カ月がたちました。赴任先の紅葉川高校も東西線沿線に位置し、門前仲町駅を通るたび、三商生の制服を見るたびに、三商を思い出しながら通勤しています。三商ロードの桜は、何分咲きか。お世話になった先生方はいかがお過ごしか。生徒達は、しっかりと学習し、有意義な生活を送っているか。九年間三商に勤務していた私から、簡単に三商への思いを断ち切ることはできません。

三商は、私の肌合っていたように思います。校舎から運河に目をやると筏が悠々と流れていました。そのゆつたりと流れる様子を眺めていると、何かが安まり、焦らなくてもいい、マイペースで「一歩一歩進め」と語りかけてくれたように感じました。生来のんびり屋の私にとって、「筏の語りかけ」は黄金律であり、仕事が行き

### 三水会活動報告

土方 敏之

平成六年十一月十五日午後二時三十分、富士急行サロンバスに乗り、富士をめぐり、築地本願寺前を出発。三水会ファミリー旅

## 三水会 水澤期 三水同



さて、私は、九年間一度だけ卒業生を送らせて頂きました。私達の学年は、旧制服最後の学年でした。男子制服は上下とも黒で、リトルエントルマンを表現するのに相応しいものでした。制服を比べると、社会の変化・三商の変化がうかがえると同時に、少し淋しいような気がします。しかし、筏が運河を滔々と流れるように、三商のこれからも、さらにさらに続きます。「筏の語りかけ」の如く、三商らしさを大切につなぎながら、着実に前進する三商の姿を期待しています。

翌朝、食堂にて朝食をとり、それぞれ思いを胸に別れをおしんで出発。本栖湖を一周して富士国際花園へ、花の中に入り花に囲まれ、夢の世界を味わい、心も清くなつて出てきた時は清々しい美しい顔となり、「よかった」の連発。お腹の虫もひそかに動き出し、花より団子といつていい。

むかしの牧場へ。ここで記念写真をとり、バーベキュー料理を頂き、外に出て富士高原の風と景色に一体化し楽しんだ後、白糸の滝

行「富士山周辺紅葉観光の旅」は始まった。東名高速のスピード感と車窓の景観を楽しみながらの飲食を満喫して一歩一歩近づく。富士山の近くになると紅葉の山が眼前にせまってくる。同時に富士山が大きく目の前にひろがってくる。みている会員や家族の顔も輝きを増して、夕焼けにそまつた富士によいしれ、今夜の宿「中央区立区民健康村「ヴィラ本栖」」についてしまった。

ファミリー毎に室に落ち着いて、お風呂に入つてひとときを過ごす。いよいよお待ちかねフジヤホテルによる素敵な夕食宴会の始まり。食事の前に記念写真撮影と全員整列して「ハイ・チーズ」。がしかしフラッシュがつかない。大橋会長のカメラに代役をお願いし無事成功。後はしゃべって、食べ、飲んで、しゃべってのんで…。時間もいつしかすぎゆき、追い立てられるようにしてクラブにて二次会。カラオケルームにて会員の歌にあわせて、いつもはおとなしい奥様方も次第に踊り始め、ダンスタイムと化し、歌手も次第にのせられ、大いに歌いまくった。

へ。滝のかれいさと雄大さを味わい、何となくイメージとの違いを感じながら帰途へ。朝の早い業務の身のつらさ。昼をすぎると早く家へ帰り明日に備えたい。もうバスにのると心は家と明日のこと。

富士の自然とちよっぴりごつかさ味わった家族旅行であった。会員の反応もよくこれからの会行事の定番になるかと思う。

平成七年一月十日銀座「きむら」にて総会及び新年会開催。本年は春の行事を中止することにした。秋に船での会食会を企画したが日時があわずこれも中止となつてしまった。

平成七年一月二十日日本橋「とよ田」にて総会及び新年会開催。

三商同窓会名簿及び会員の動向について報告があり、今年度の市場に関して、都や卸売会社、産地動向について会員間で意見交換が行われた。

春の行事に関して、恵比寿ガーデンプレイスの東天紅にて「上空よりの東京の街と料理」を味わう。

### 木擇会例会報告

山崎 順三

昨年同様今年も好天に恵まれた平成七年十一月二十七日午後八時より、会長のご意見で会場は足場の良い門前仲町の「東天紅」に定められたこともあり定刻前に殆どのお顔が揃いました。

司会は、細田安治君、定刻十分過ぎに、開会を宣し、恒例の会長ご挨拶。一昨春秋勲四等瑞宝章を受賞され、本年四月から全国木材組合連合会会長の要職につかれ、

来年八十歳のご高齢にも拘らず、東奔西走して居られること。その秘訣の健康法としては、冬期に冷水摩擦を励行されておられる由、本年、五月の植樹祭、十月の育樹祭、同月の赤坂御苑の園遊会更に十一月の国立劇場に於ける「終戦五十周年の集い」の4回に及び、皇室ご一家との触れ合いについてのお話は木材業界と、皇室家との親近感が、会長を通じて深まったことであり、大変業界にとつては慶ばしいことと感ぜられ、会長の功績に感銘しました。

乾杯の音頭は、青木錦一さん。開宴となり、談笑が弾みました。

宴半ば、会長から林清次郎さんの、八月大根カントリークラブのクラブコンペで、記録された38・37計のエイジシートのご紹介があり、同氏よりご挨拶がありました。次いで中座される、江東区会議員・川名省三君の区政報告。お次ぎは、この秋の叙勲で、日本木材協議会会長の要職の永年勤続で、受賞された、榎戸さんのご挨拶、並びに恒例の業界の展望のお話。来年は今年より希望が持てる

ご観測を述べられる。更に森林憲一さんの、悠々自適、観劇のお楽しみのご報告、新派の二代目水谷八重子の襲名興行に於ける言葉を

通じて、事業経営のご高説。そして石田陽康さんから、吉沢先生記念誌の発刊に際し、9期代表として追悼の文を書き、その内容に、

会長の言葉から、「木擇」の命名が、吉沢先生であることを書き、その件を林材新聞に投稿、掲載になったこと、その新聞のご紹介などがありました。

中締めは、松原恒吉さんが、音

頭を取られ、会長より、来年は中間にもう一回集まるうのご提案があり、一同異議なし。それにしても、一昨年は会長、



重ねている訳ですが、気分は、回を追って若返るような感じがする、誠に楽しい一時でした。

平成八年二月十五日 出席会員

(数字は卒業期)

- 亀井清蔵① 青木錦一④ 林清次郎⑦ 松原恒吉⑩ 森林憲一⑨ 石田陽康⑥ 山崎順三⑩ 榎戸勇⑩ 中津 茂⑬ 小池史郎⑩ 小山祐一⑩ 林 清兵衛⑩ 一条 満⑩ 細田安治⑩ 川名省三⑩ 木戸隆吉⑩ 岩瀬 源⑩ 以上 17名

### 四期会

黒須 康介

四月六日丸の内「ポールスター」に於いて四期生会を開催卒業八十周年記念大会とし三十二名が出席。記念品を持ち来年の再会を約し解散す。

卒業六十周年記念 平成八年度三商四期生会

- 内藤憲一 秋山栄一 吉塚 功 鈴木信知 石田五郎 柳林 良 佐藤 豊 四倉栄次郎 内藤六郎 荒井賢造 小田雅史 只腰素久 小島三郎 熊谷範一郎 長谷川幸夫 岡田利三郎 神原弘一 河内 春雄 島崎長次郎 白井良一 鈴木 豊一 高梨武男 熊野利久 森 本作感 桜井道夫 奥田康晴 窪 田甚之助 黒須康介 徳永浅治 小林源三 小木北辰 柳田栄太郎



- 鈴木重 荒井賢造 高梨武男 熊野利久 小田雅史 熊野利久 森本作感 窪田甚之助 黒須康介 徳永浅治 小林源三 小木北辰 柳田栄太郎 岡田利三郎 神原弘一 河内春雄 島崎長次郎 白井良一 鈴木豊一 高梨武男 熊野利久 森本作感 桜井道夫 奥田康晴 窪田甚之助 黒須康介 徳永浅治 小林源三 小木北辰 柳田栄太郎

### 三商日記

好川 栄一

私は昭和十二年二月三歳卒業の五期生です。今、70才の老人です。

年をとるとどういつ訳か昔が懐かしくなります。三商時代の友人との交流をよみがえらせ、その交流の輪を拡げたいという気持ちがあるようになりました。それが以下に述べる三商日記につながったのです。

私は自分の本来の日記のほかに、自分で勝手に三商日記と名付けた日記を書いています。当初は、三商の思い出や私の亡き母が校長に寄せた敬慕の念などを紙に書き、五期生の中でも比較的つき合いのあつた友人に送つたのでした。意外にも大きな反響があつて、多くの五期生諸兄から三商の思い出、吉沢校長流の、当時としてはまだ例の少ない自由主義的教育に対する尊敬の念、さらには現代日本の流れに対する反省、あるいは現在の各ご当人の生活や健康の状態など実いろいろの事を記したお便りが来るようになりました。

これを私ひとりの机の引き出しにしまつておくのは勿体ない、できるだけ多くの五期生諸兄に読んでもらい味わつてもらふべきだと考えました。B5版27行の用紙に一つし書きを始めました。長文のお手紙は要点に絞り、誤字は辞書を頼りに訂正し、お便りに対して時には私の感想も添え書きして、日記が20頁乃至30頁になった時点で「ピー」して、現在約百名の五期生とその未亡人に送っています。一昨年、平成五年十一月十五日から始めて丁度二百頁になりました。

五期生の親交を深くしたい願を述べたいという思いでやっていますから、約百名全員に対して必ず



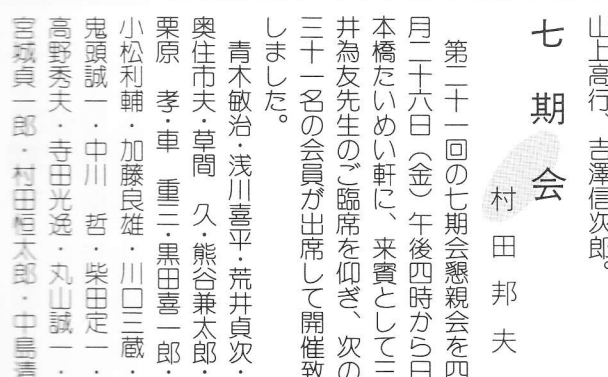
郵送しています。百名の四分の一の同期生は全く梨のつぶてです。が、でも心は届いているであろう、ご当人は病気がもしれない、と思つて欠かさず発信しています。事実、梨のつぶては約35%であつた状態から25%になつた次第で、ご返事をくれる人が少しずつ増えていることはなんともうれしいことでもあります。北は旭川、南は別府の同期生からお便りが届きます。

五期の諸兄が三商日記を読みながら、この松下とは三年A組と一緒にふざけ合つたかな、この五十嵐とは四年B組の時、習志野の原で突撃の演習をしたのではなかつたかな、などと思ひ出した時、各人が各学年でどのクラスに属していたかが分かる学年別クラス別名簿があれば思ひ出のために非常に役に立つであろうと考えて、それを作ろうと思ひましたがそれは非常に難作業でした。

百名の諸兄に、ご自分が一年から五年までの各学年において何クラスに属したか、そのクラスで同期生であつた級友は誰と誰であつたか、その級友の名を一人でも二人でもいいから書き送つてくれ、と依頼しました。その返事を集大成すれば名簿が出来ると思つたのでした。しかし、ひるがえつて思うに私自身も一年と五年の時を除いては何クラスに属していたか記憶がない、友人の顔は記憶にあつてもそれが何学年の何クラスであつたか極めてあまいであることに気がきました。案の定、大部分の五期生から同趣旨の返事が返つてきました。名簿作成の作業は遂に挫折してしまいました。

生んでくれました。何人かの同期生が「E、二D、三E、三F、四D、四E、五A、五Dの集合写真を提供してくれたのです。新学期の四月頃、校舎を背景に撮つたものの、富士の裾野や習志野の軍事教練演習場で撮つたもの、五月五日の端午の節句の折りに校庭で撮つたものなど様々です。これらの写真は学年別クラス別名簿を作成するにつれてだしかに役立ちました。それよりも、それらの写真をカメラ屋さんに頼んでネガを作つて焼増して、そこに写つている諸兄宛に送りましたところ受け取つた諸兄が大喜びしてくれたことが、五期生の親交を一層深いものにするのに役立ったのです。なにしろ昭和二十年三月十日の空襲で家も物もすべてを焼かれてしまつた諸兄が多いのですから、昭和十年頃つまり六十年前の懐かしい少年時代の顔を見て感激してくれました。にわかによくの同期生から寄付金を頂くようになって五期の会の財政はリッチになりました。

本日は、それらの写真に写つている諸兄だけでなく百名の同期生すべてに、懐かしい友人の顔が鮮やかに見えるそれらの写真を送りたいのですが、それでは費用がかかり過ぎるので、三商日記の頁に「コピー機でそれらの写真をコピーして百名の諸兄に送っています。自分でコピーしている内に、文字とちがつて写真は僅かな濃淡の差で鮮明にもなり不鮮明にもなることとが分かつて、この頃は「コピー」がかなり上手になつたぞ、と自負している次第です。



平成八年度の六期会は、去る四月四日（土）正午より上野広小路「今半」にて開催。当日は米寿を迎えられ、なお豊饒たる高橋昇一先生の御参加を得三十一名が集合。

く暗くならないように、古くさくならないようにと心掛けています。が、この一年間に亡くなつた同期生は11名ですからどうしても哀悼の言葉が多く、また病気の諸兄も多いので、その病状をお伝えする限り明るい記事とは言えないものになり、さらに昔の三商、門前仲町界隈の想い出となればどうしても古くさいということになって、若干の批判があることは承知しています。日記をなるべく明るくものにして、私の健康が許す限り書き続けたいつもりです。読み易いように、行書（くずし字）を避けて楷書で書き続けます。あと何年続くことやら。

六期会  
黒澤 一雄

御祝品並びに出席者全員にて色紙に寄せ書「友垣」を贈呈、先生の御高説を拝聴のあと懇親に入り、談論風発、盛会裡のうちに終了しました。我々も歳をとつたか平成五年永年幹事長杉原勇太郎が逝つたあと、昨年迄に十名もの諸君が鬼籍に入り、更に本会終了後幹事長を引継いだ川野太郎君が急逝、又欠席者四十名余の内半数が体調不良と寂しい限りですが、一同長寿の先生に肖つてお互い一層の精進を誓ひ合つと同時に次回を楽しみに午後二時散会した次第でした。（出席者次の通り）

高橋昇一先生、井上一雄、井上幸太郎、石井安治、石黒正雄、宇野直治、江川義三郎、岡本廣治、岡本増夫、海宝 誠、梶川辰雄、茅原孝一、久野鐘一、黒澤一雄、斉藤良雄、下道吉夫、杉本 尚、染谷福三郎、土田太喜蔵、堤嘉一郎、永島富一、藤枝哲男、北條 進、牧野 淳、三澤 勉、水原 孝、宮城邦三、宮崎 隆、森 幸彦、山上高行、吉澤信次郎。

七期会  
村田 邦夫

第二十一回の七期会懇親会を四月二十六日（金）午後四時から日本橋たいめい軒に、来賓として三井友友先生のご臨席を仰ぎ、次の三十一名の会員が出席して開催致しました。

青木敏治・浅川喜平・荒井貞次・奥住市夫・草間 久・熊谷兼太郎・栗原 孝・車 重三・黒田喜一郎・小松利輔・加藤良雄・川口三蔵・鬼頭誠一・中川 哲・柴田定一・高野秀夫・寺田光逸・丸山誠一・宮城真一郎・村田恒太郎・中島清也・長坂源一郎・長瀬正夫・服部博吉・原田紳一・福田健一・松井一郎・山口昌雄・横山隆一・吉井瑞雄・村田邦夫

昨年の懇親会終了時は九十五名の会員でしたが、今回の懇親会迄に大島周一・今村 等・松倉喜八郎・前田博司・久山義郎・目黒光吉・吉田石門・浅見清蔵・高橋貞男・石井貞修と十名の諸君が亡くなり寂しくなりました。これらの方々を偲び、再会を喜び語り合いました。が、三年後に卒業六十年とお互いの喜寿を祝つては懇親会を続ける事を当面の目標として居ります。

八期会  
神谷 武志

六年十月六日 於浜松町東京会館 出席二八名 幹事バレー部

幹事は彼等が東京府を制覇し全日本に歩を進めた当時のホームコート、恩賜公園に隣接した貿易会館47階東京会館に設営した。流石に眺望は素晴らしく歓談の肴には充分であつた。

七年十一月十三日 於 グランヒル市ヶ谷 出席二二名 鈴木重、神谷

今年には終戦五十周年に当たるので旧大本営のあつた市ヶ谷の地に設営。時季が遅かつた故か、風邪患者も多く出席者が少なかつた。吉沢校長記念誌刊行祝賀会で知り合つた「ペチャマン」の名付親と称する二期宇佐美氏を来賓に又彼の創意に係るアコーション演奏を酒の肴にとの魂膽であつた。途中幹事鈴木重君が体調を崩し救急車にて女子医大に搬送されるハプニングにより自講見は一頓座、幸風邪

と疲労の為との診断にて小憩帰宅された。不幸中の幸と云うべきか。

今年は八名の物故者を出したが健康の保持について痛感する次第である。

そろそろ昼間にとの声もあるが。

一、全員七五才迄は夜間(平成十年)それ以降は昼間に

二、幹事は出席者アイウエオ順に努める事を決して解散



### 十八期会

田村 博

小宮六郎君の尽力により18期を久し振りに開催する事となり、平成7年11月17日港区虎の門にある霞が関三井クラブで開かれました。

出席者26名でメンバーが固定されてきたのが気掛かりです。この期も同じようか東京在住者が少なくなってしまったのが参加です。アメリカ在住の同窓生も同



期会出席の為はるばるかけつけてくれました。有難うございます。暫しの一時を歓談や、近況報告があり次年度より日時を固定し、前もって参加の予定を立てられるように取計らう事にしました。長い間、会に出席されていない方は、近況だけでも御一報下さい。  
TEL 03(35552) 3638 田村宛

### 二十五期会

登坂 隆美

「4年後に開催」という約束を一年早めての第五回同期会です。開催案内文に「戦後五〇年の節目」という表現を使いました。私たち世代の、まさに「生きざまの歴史の五〇年」でした。

参加記念に、修学旅行(S・32年4月)の「修学旅行のしおり」「西國モトローを準備しました。在学中の最高のイベントでした。会員が旅館の献立表を記録していただきましたので、表にして添付しました。なご「日本」と記述・強調されていきました。校内売店や外

の商店でも米飯弁当など売られていなかったと記憶しています。

開催日の直前に発表された「95年度の国民生活白書」は、副題が「戦後五〇年の自分史——多様で豊かな生き方を求めて」でした。前回会合のレポートを寄稿した森万紀子幹事が「まだまだこの同期会、安閑と昔話のみに終わらせる訳にはいかない」と指摘しています。

私たちは、今後とも各々の立場で、年齢なり役割を演じながら、上手に年をとり、美しい人生、生きるに値する人生を手に入れていきたいものです。

会合は「定年」とか「出向・処遇変化」などに伴う新しい人脈作りや新職場・新職種に関する会話も聞こえてきました。同期会は気兼ねなく語らえる集まりです。会合は2時間の短いものでしたが、2〜3次会を期待して設定した会場と時間は、幹事が最も気を使った事項でした。主軸の会の後に、多数の意義ある2〜3次会があった事を聞くと、幹事としてはホッと致します。

関東近隣のほか、関西・東北等の遠方からの参加者の皆さん、本当にありがとう!

※ 二十五期会の日時等  
平成7年11月18日(土)

UR東京駅大丸デパート12階「ルビーホール」三時より。

※ ご来賓

岩永 達郎先生(三組)  
中川 甲子二郎先生(五組)  
出雲 正明先生(七組)

※ 会員参加 一〇四名

### 二十六期会

ハッスルする

五十四過ぎたる三商健児

古田 勝一

私共昭和三十四年に卒業致しました二十六期は、これまでに九回同期会を開催して参りました。卒業後一十一振りに開いた第一回同期会からは、西暦奇数年の六月第三十曜日(二年に一度)に開くと決定し、毎回代表幹事を一組、九組迄順に当番制とする事等もすつかり定着しました。

昨年の同期会は七組の当番で、錦糸町のロツテ会館で開催され、代表幹事の松本達幸君、飯田富男君、志村紀雄君、吉沢淳一君、清田実君、村杉早苗君、山田俊広君のかたがたにお世話になりました。斎藤克先生、稲田宏先生、酒井齊先生のご臨席を戴き、幹事の清田君の妹さんであられる高田まさ江様による「シャンソンショー」もあり、三商応援歌、校歌を大声で合唱し、思い出なつかしいひとときを過す素晴らしい同期会となりました。

只、ここ数年の間に吉住晋作先生、杉原勇太郎先生、滝原俊彦先生、

### 近年ご世界の先生

- 今村直人先生(一代校長)
- 清田榮一先生(五代校長)
- 上条次郎先生(英語)
- 杉原勇太郎先生(商業、六期)
- 江藤保定先生(国語)
- 寺山勲重先生(商業)
- 吉住晋作先生(体育)
- 星野信吾先生(商業、七期)
- 関口信夫先生(国語)
- 吉田久登先生(商業)
- 若林省二先生(商業)
- 伊藤政良先生(社会)

生と相次いでお亡くなりになり寂しい限りです。

又、昨年の一月の阪神大震災の際は、報道直後には岩瀬和子(旧姓坂口)さん、鈴木久美子(旧姓長尾)さん、牧野滋子(旧姓清水)さん、亀卦川富士枝(旧姓中村)さんのかたがた女性陣より、同期で被災されたかたにお見舞をしては…と声が上がって早速、増田進一郎君経営の「かつ進」に各クワ入世話人が参集しお計り致しました。前例がないから何もしないというのでは、「三商スピリット」に反するという力強い声で一致、全国の同期に呼びかけました。百三十一名のかたがたから当初予想して居りました数字をはるかに越える九拾六万円という金額が寄せられました。もとより金額の大小ではございませんが四組のある女性はお一人で拾万円をお振込下さいました。この事を知らされた私は熱い思いが胸一杯になって暫し茫然と致して居りました。

ここに二十六期同期会のパワーを再確認し、誇りに思つた次第です。

### 平成7年度 同窓会収支決算書

(自平成7年4月1日 至平成8年3月31日)

収入の部	13,023,487
前年度繰越金	1,981,000
会費 (¥7,000×283人)	1,161
利息(普通預金上期分・解約利息)	623
利息(普通預金下期分)	118,197
利息(定期)	15,124,468
合計	15,124,468
支出の部	210,444
理事・評議委員会	333,070
慶弔費	325,698
同窓会報	103,000
事務局運営費	202,300
卒業記念費 (¥700×289人)	400,000
協議会参加補助	13,549,956
次年度繰越金	15,124,468
合計	15,124,468
次年度繰越金内訳	普通預金残高 ¥3,256,352
	定期預金残高 ¥10,293,604

監査の結果公正妥当であることを認めます。  
平成8年4月25日 会計監査 小川 敬 大塚 清